

2026.8.20 (木)
第7回例会
(通算3864回)

2026-2027 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「志を継ぎ、未来を拓く 90 年」

会長 工藤 彦夫
副会長 市橋 多佳丞
幹事 八幡 好洋

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 三ッ輪ビル 2F

編集責任者 クラブ会報・雑誌・公共イメージ委員会

☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2026-2027 年度
国際ロータリーテーマ

持続可能な
インパクトを
生み出そう

CREATE LASTING IMPACT

2026-2027 年度
RI 会長 オンライン・ハキーム・バロラ

第 2500 地区ガバナー
山本 倫生 (旭川 RC)

「親睦から始まる持続可能な奉仕」

本日のプログラム 全道中学親善硬式野球大会・釧路ロータリーカップ 報告会 (青少年奉仕委員会)

次 週 例 会 釧路ロータリークラブ 創立 90 周年 に向けて (創立 90 周年委員会委員会)

■ロータリーソング：四つのテスト ■ソングリーダー：田中 弘明君

■会員数 108 名

■ビジター

■ゲスト 北海道釧路工業高等学校アイスホッケー部監督 土居功弥先生
釧路リトルシニア球団監督・橘幸司様、 // キャプテン 樋口瑠珂君

会長の時間 工藤 彦夫会長

皆さん、こんにちは。今日は、アイスホッケーの報告と野球の報告ということです。これをずっと続けられるのは、いつも担当していただいている先生方と橘さんのおかげだと本当に感謝しております。



工業高校の土居先生には、2 日前にお子さんが生まれたそうです。おめでとうございます。(拍手)
今、こんなところで、こんなことをしていられないと言って、すぐ帰るそうです。この野球に関しては、2010 年・尾越年度のときに邵さんが、お子さんが硬式野球をやっていて、どうしてもやりたいということで始めたのです。僕に「金がないんだよねー」と相談されて、大変な思いをして 広告を皆さんにお願いしてやったような思い出があります。
第 1 回目は厚岸でやっています。その後、ずっとやってきて、今は分区の事業になっているという経緯があるのです。まあ、邵さんの息子を目立たせたいという不純な結果が、今では立派な大会になっているということで、嬉しい限りであります。
あと、アイスホッケーのほうはご存知のとおり、泉先生が最初にやって、もう 40 何回も続いておりますの

で、これも素晴らしい事業だと思っております。
スポーツついでで、僕も大学の時、空手をやっていたのです。全然関係ない話になりますが、空手をやっている学校祭で演武をやったり、人が来るので見せたりする「試し割り」というのがあったのです。普通は、枡目 (まさめ) が入った板を割るので、そんなものは簡単に割れるのですけれど、なかなかお金がないクラブだったので、生木の節ある板でやるのです。手が痛くて、痛くて、そんな思い出ばかりです。
あと、瓦割があります。瓦には『空手用の瓦』というのがあるのですよ。「大鵬せんべい」みたいな形になっていて、少しずつ隙間があるのです。裏に線が入っていて、割れるようになっているのですよ。今度、チャンスがあったら見てください。アマゾンでは 10 枚セット 4000 円ぐらいで売っています。本当に割れやすいのです。力で割れるので、「グー」してポンとやったら、力学的に言うと上の瓦が割れたら、隙間があって、ちゃんとバタバタといくようになっていくのです。
間違えても、今、出ているセラミックの瓦なんか割れるものじゃないので、そんなのはやらないでいただきたいと思います。
とにかくスポーツをやることで青少年が育って行くことを、それを今日は代表で樋口君に話してもらいます。緊張しないで。名前が瑠珂君。かっこいい名前だね、緊張しないでゆっくり話して。さっき、佐藤君が礼の仕方とかを教えたので、そのとおりやればバッチリで

す。よろしくお願いします。
以上です。

幹事報告 八幡 好洋幹事

幹事報告をさせていただきます。前回、ご協力をいただきました「熊本地震の災害支援金」が5万1500円となりました。たくさんのご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

また、吉田潤司君の娘さんのご活躍が新聞の記事に載っておりますので、後ほど、回覧をさせていただきます。ぜひ、ご覧いただきたいと思います。

また、遅くなっておりました地区大会のご案内を本日、発信させていただきます。10月10日に本会議があります。前日の10月9日の夜に、釧路ナイトを予定しております。ぜひ、多くのメンバーでご参加をいただきたいと思います。

さらに、本年は西村ガバナー補佐を輩出し、荒井ガバナーエレクトもいらっしゃるということで、10日の本会議の後の大懇親会も含めて、ぜひ多くのメンバーでご参加をいただきたいと思います。

また、ご案内が遅くなってしまったうえ、恐縮ですが手配の都合上、9月3日までにご出欠のご連絡をいただきたいと思います。

■本日のプログラム■

全道中学親善硬式野球大会・釧路ロータリーカップ 報告会

青少年奉仕委員会 中村 司委員長

委員長の中村です。よろしくお願いいたします。アイスホッケー、そして硬式野球に皆さま方にご協賛、支援をいただきまして無事成功裏に終わりましたこと、委員会を代表して厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

それでは報告例会ですので、早速、始めたいと思います。

はじめに、ロータリーカップアイスホッケー大会につきましては、釧路工業高校アイスホッケー部監督の土居先生、よろしくお願いいたします。

釧路ロータリーカップ 報告

釧路工業高等学校アイスホッケー部監督

土居 功弥先生

皆さん、こんにちは。釧路工業高校アイスホッケー部監督の土居と申します。本日はこのような機会をいただきましてありがとうございます。



先日行われました、第33回釧路ロータリーカップについて大会の結果だけではなく、大会をとおして感じたことについてもお話させていただきたいと思います。

まず、結果からご報告いたします。今回の大会は、7月24日から26日まで例年より早い開催となりました。K K S 釧路厚生社アイスアリーナにて3日間の日程で行いました。参加したのは釧路地区、道南地区、そして道外から龍谷富山高校の合計8チームで開催することができました。

大会の最終結果です。優勝が武修館高校、準優勝が今季初参加の苫小牧中央高校、3位が苫小牧工業高校となりました。

私が指導しております連合チームは、釧路工業高校、湖陵高校と北陽高校の3校合同で参加したのですが、残念ながら1回戦で苫小牧工業高校に敗れてしまいました。結果としては、悔しい結果に終わったのですが、今回の大会を終えて、結果だけではなくて多くのものを得ることができた大会だったと感じております。

それは、同じ高校生の大会であっても、各チームがそれぞれ違った状況の中で大会に挑んでいることです。例えば、怪我人を多くかかえながら、骨折しているとか、もう長期間でできない選手が複数人いるチームもあったと聞いております。

アイスホッケーという競技は非常にボディーコンタクトが多いスポーツです。当然、シーズンを通して怪我が全くないということはありません。怪我をしている選手がいれば、チームとして戦力的にも厳しくなるかと思いますが、それでもその状況の中で、チームとしてどう戦うのか、出場する選手がどれだけ頑張るのか、それから試合になかなか出られないベンチにいる選手がどのようにチームを支えるのか、など、そういった部分もアイスホッケーという競技のひとつの面白さだと私は感じております。

一方で、今回の大会を8月上旬のロータリーカップが終わった次の週に、苫小牧市で例年開催されております全国選抜大会に向けて重要な大会ということで位置づけていただいて、チーム力を高めてきたチームもたくさんありました。

同じ大会に出場していても、今自分たちがどこを目指しているのか、大会をどういう意味で戦っているのか、それぞれ違うかと思いますが、そのようなチームと実際に試合することで、自分たちが練習しているときには見えないものが見えてきたりします。今回、この大会に参加する大きな意味を感じているところであります。

私が今回一番印象に残った試合としては決勝戦です。ご覧になられた方もいらっしゃると思うのですが、武修館高校と苫小牧中央高校の決勝戦です。スコアとしては3対2でした。最後は、ペナルティショット

となりました。サッカーでいうP Kのようなところまでいって、かなりの接戦だったのです。武修館高校が苫小牧中央高校を破り優勝しております。

スコアだけ見ても非常に競った試合だと感じている方



もいらっしゃると思いますが、私自身も、やはり高校生のアイスホッケーはとても面白いなと改めて感じたところであり

ます。

私が一指導者としてこのような試合を見ることに大きな意味があると思っています。自分たちが戦って負け、その後に決勝戦を見るとか、自分たちと何が違うとか、課題に気づけたりします。ベンチの振る舞いとか、試合に臨む姿勢など、ベンチの声とかを含めて多くを学ぶことができた大会になりました。

高校生にとっても、この悔しいという感情も非常に大切だと思っています。負けたからこそ、もっと上手になりたいとか、次は勝ちたいとか、そういう気持ちが生まれて、それを練習につなげて今回の大会が決して無駄になることはないと感じております。

今大会でもいろいろなチームの戦う姿を見ることができました。そういう経験を、自分たちのこれからのにつなげていく、それが今回の大会で一番得たものではないかなと感じております。

また、この釧路ロータリーカップという大会の持つ意味です。普段、高校生は学校の中で生活しておりまして、部活動では、自分たちのチームの仲間と練習している所ですが、大会になると普段は一緒に練習していないチームと戦うことになります。他のチームがどんなプレーをするのか、自分たちは何ができて、何ができないのか、それを知ることができる大会になっていると思っています。

勝ったチームだけではなくて、負けたチームにもその経験は残ると感じています。このロータリーカップで悔しい思いをしたという経験が次につながり、高校生が全力で本気で挑戦できる場所を、ロータリークラブの皆さまに作っていただいていることは本当にありがたいことだと改めて感じております。

高校3年間というのは競技力だけではなく、人間としても大きく成長する大事な時期だと思います。試合に負けて悔しい思いをしていたり、反対に仲間と一緒に戦って勝つたりの大きな喜びがあります。そういった経験を積み重ねることで選手たちを成長させていきます。また、アイスホッケーはチームスポーツですので、自分1人がどれだけ頑張ってもチームとして機能しなければ、試合に勝つのはとても難しいです。仲間を助けるとか、仲間をカバーする、自分が試合に出てい

ないときにはベンチからチームを支える、先ほどもお話をさせていただきましたが、声を出すといった経験が将来、社会に出たときに必ず生きてくると思っています。

今大会の経験をこれからの練習、次の大会につなげていきたいと考えております。そして、何より、高校生が本気で競技に取り組む機会を作っていただいたこと、例年ですと、このロータリーカップは11月の下旬から12月の中旬にかけて開催させていただいておりますが、こちらの勝手な都合で7月末、野球の大会もあって忙しい中で調整いただきまして誠に感謝しております。

ロータリークラブの皆さまに支えていただいているからこそ、高校生たちは貴重な経験・体験をすることができたと思っています。これからもアイスホッケーをとおして社会で通用する人材を育てていきたいと思

います
改めまして第33回釧路ロータリーカップの開催、そして、高校生たちへのご支援にここより感謝申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

全道中学親善硬式野球大会の報告

それではまず、この映像をご覧ください。

(大会記録のビデオ 上映)

釧路リトルシニア球団監督 橘 幸司様



皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました釧路リトルシニア球団監督の橘と申します。本日はお招きをいただき、ありがとうございます。

います。

今年も全道中学親善硬式野球大会の開催に向け、ご尽力いただきました皆さまに感謝申し上げます。また、ウインドヒルひがし北海道スタジアム球場を確保していただいたことにも、重ねて感謝申し上げます。ありがとうございます。

大会は今回で17回目となりました。参加は、札幌真駒内、旭川北稜、旭川西、日高、大空、釧路の6チームでした。DVDでご覧いただきましたとおり、優勝は2年連続で大空チーム、準優勝は日高チームでした。釧路チームは4位という結果になりました。

毎年、動画を作成いただいた佐藤さん、ありがとうございます。

このDVDを見て思ったのですが、「8人で行う始球式」は史上初ではないのかなと思います。佐藤さんが「どうしても8人で」ということだったので、8人の

キャッチャーを並べました。



今年は6チームの参加ということで、1日目にリーグ戦、3・3に分かれてリーグ戦を行い、2日目に順位決定戦を行う方式で行いました。

全チームが2日で3試合を行う、少しタイトなスケジュールではありましたが、全チームが人工芝のウインドヒルひがし北海道スタジアムで試合をすることができました。

また、2日目はサブ球場が空くことになったので、下級生も連れて来ているチームがあったので、希望チームには練習試合をさせていただきことができました。皆さんにたくさん野球をしていただくことができました。釧路チームも結果は4位でしたけども、練習試合を含めると、2日で5試合を行うことができました。

今の時代、熱中症とかがあって、本当は「それは体罰だ」と言われるかもしれないですけども、学年を分けてやらせていただきました。

今回は、全国大会に出場するチームがあったことから、参加が6チームと少なかったのですが、参加チームからは、また、「来年もぜひ人工芝の球場でやりたい」と言われておりますので、皆さんのお力添えをいただいて、この球場を使えるといいなと思っております。今後も本大会を開催していただき、中学硬式野球の発展と野球人口の増加、釧路地域の野球の底上げの一端を担っていただきたいと思います。

また、来年以降も全道中学硬式野球大会の開催に向け、皆さまのご理解ご協力をお願いいたします。

当球団はいま、3学年34名で活動しております。遠くからは浜中、厚岸、弟子屈から通う選手もおります。新入団員は随時募集しておりますので、皆さまの近くに野球が好きな少年少女がおられましたら、ぜひご紹介していただければと思います。

本日はどうもありがとうございました。

釧路リトルシニア球団キャプテン 樋口 瑠珂様

皆さん、こんにちは。釧路リトルシニアの樋口瑠珂と申します。

まずは、この釧路大会、このような素晴らしい大会を開催していただき、誠にありがとうございます。

このような大会では、普段見ることができない友達や、おじいちゃんやおばあちゃんなど、親戚の方々も見に



来て、私たちの試合をしている姿を見せることができ、とてもいい大会だと思います。これからも、来年も、再来年も、またこの大会を開催していただくことをお願いします。ありがとうございました。

会長謝辞 工藤 彦夫会長

本日は本当にありがとうございました。瑠珂君が来年も続けてほしいと言うので、きっとやれると思います。安心してください。

あなたは、もう3年生だからいないのか。残念ですけど、やっていると思います。

あと5分あるのですが、この前、完全試合やったという話、橘さん、5分で話せますか。はい、橘さんの完全試合の話聞きましょう。

卓話 『完全試合について』 橘 啓介様



橘です。お疲れ様でございます。

今、いろんな映像を見させていただいて、すごく感動的だなと思います。自分も野球を通じていろ

んなことを学んできました。息子も野球やっていて、野球を通じて人生観を養って来られたということもありました。

そのきっかけということで少しお話をさせていただければと思います。

私は高校が根室高校です。小中高までピッチャーをやっていました。高校2年生の時に、たまたま釧路大会があった時に、5回で10点の差がつくとコールドゲームなのですが、その5回までフォアボールなども出さずに、15人全員から三振を取ることができました。

日本の高校野球界で私が初めてだったものですから、この記録を持って大学まで行けたということもあります。プロ野球の方からもいろいろと来ていただいて、見ていただいたこともあります。

そういう運が良かったということもありますし、自分が努力していればということもあるのだな、ということもありました。そんな、話です。

その記録を持ったので、高校3年生のときには道内の強豪校から練習試合を申し込んでいただきました。そのとき、私は、恥骨を疲労骨折して練習試合には出られなかったのですが、そのまま大学は東京農業大学に進ませていただいて、4年間、十分に野球ができたのかなと思います。

私はいま信用金庫にいるのですが、本当はプロ野球選手になりたかったのです。なれなくて、こうやっ

ているのですけども、人生観というところでは、野球を通じて強く努力をすれば何でもできるのかなと思っていますし、挫折しても乗り越えて行ける精神力もそこで学びました。

今、やられている指導者の方、学生の方、そういうところも含めてやっていただければと思います。以上です。

本日のニコニコ献金

■吉田 潤司君 親バカですが、聞いて下さい。娘が少子化について読売新聞に記事載りました。

今年度累計 90,000 円